

電源を入れる前に

まず、このセットアップガイドをお読みください。

Windows 2000 Serverをインストールする場合、添付の「ServerStart」を使って、OSのインストールから必須ソフトウェア、ドライバ類を簡単にインストールできます。

本書は、以下の場合の設置から運用までの流れを示しています。

- 「ServerStart」を使ってセットアップ(Windows 2000 Serverの場合)

- 「リカバリCD」、「ドライバズCD」を使ってセットアップ(Windows 2000 Datacenter Serverの場合)

カスタムメイドサービスで製品をご購入された場合は、「PRIMERGY T850カスタムメイドサービス実装・設定情報」を参照してください。

セットアップの流れ

1. 梱包物 / 添付品 / 各部の名称を確認する
2. 設置場所を確認する
3. 内蔵オプションを取り付ける
4. 周辺装置を取り付ける
5. 電源を入れて、ハードウェアを設定する
6. サーバの管理機能を設定する
7. OSと必須ソフトウェアをインストールする
8. 電源を切る / 残ったオプションを取り付ける
9. システム設定情報を退避する
10. 運用開始

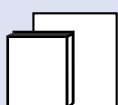
1 梱包物 / 添付品 / 各部の名称を確認する

チェック欄 ☐

梱包物 / 添付品の確認

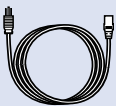
本サーバのマニュアル

- ☐ 取扱説明書
- ☐ セットアップガイド(本書)
- ☐ 保証書



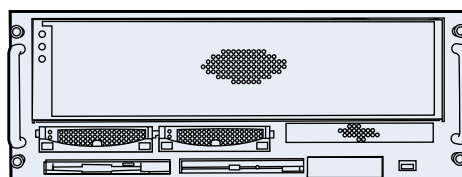
周辺機器接続時に必要なもの

- ☐ キーボード・マウス延長ケーブル(2本)
- ☐ キーボード・マウス抜け防止金具(2個)
- ☐ ディスプレイ延長ケーブル(1本)
- ☐ 電源ケーブル(2本 本体装置用)
- ☐ ACアダプタ(リモートサービスボード用)



システム設定情報の退避時に必要なもの

- ☐ BIOS Environment Support Tools



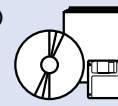
☐ 本体装置

内蔵オプション接続時に必要なもの

- ☐ 汎用ラベル(5枚1組×2)

各種ユーティリティ設定 / 確認時、およびOSと必須ソフトウェアのインストールに必要なもの

- ☐ PRIMERGY ソフトウェアガイド
- ☐ ServerStart CD(DTCタイプを除く)
- ☐ リカバリCD(DTCタイプのみ)
- ☐ ドライバズCD(DTCタイプのみ)
- ☐ ServerViewCD
- ☐ REMCSエージェント
- ☐ ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク(DTCタイプを除く)
- ☐ Server Management Tool
- ☐ Remote Supervisor Utility

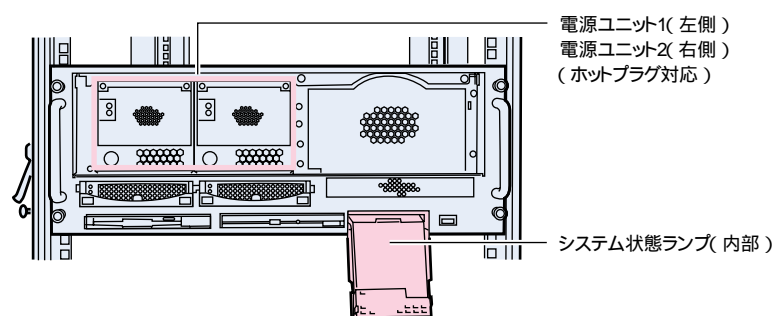
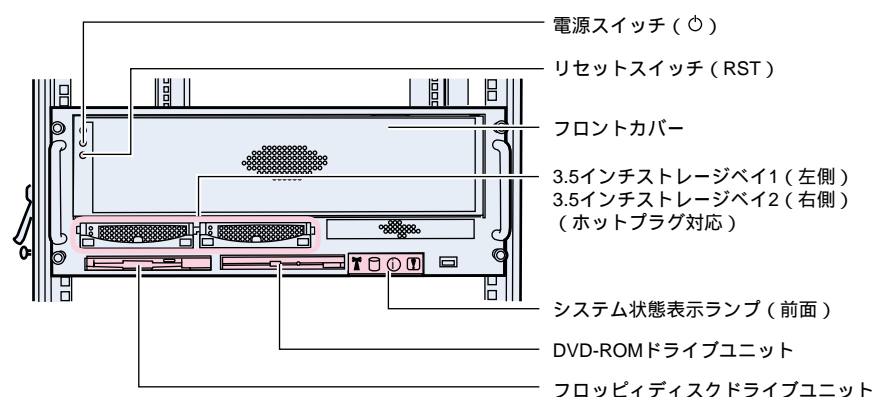


カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合、およびご購入されたタイプによっては上記以外の品物が添付されている場合があります(また、上記の品物が添付されていない場合があります)。梱包物 / 添付品は大切に保管してください。

取扱説明書 >>> 「2.1 梱包物の確認」

各部の名称の確認

サーバ本体前面

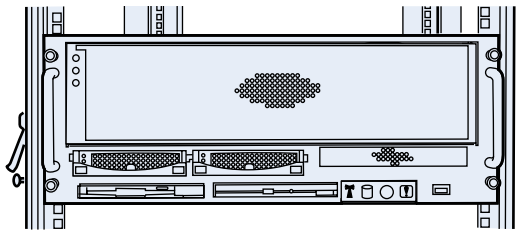


2 設置場所を確認する チェック欄 ☐

取扱説明書  「2.2 設置」

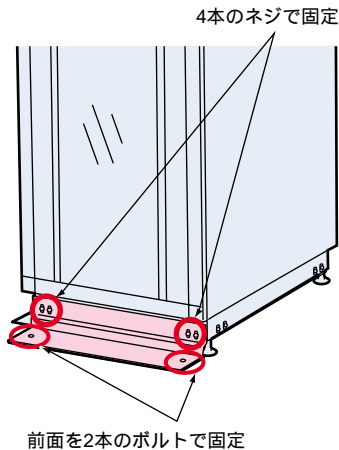
設置例

本サーバは、ラックに搭載して設置します。



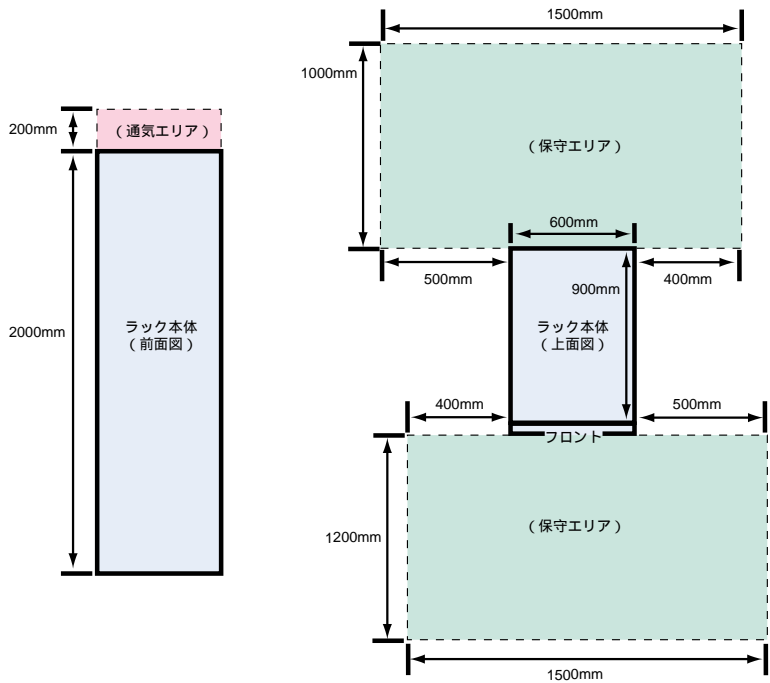
本サーバをラックに搭載してラックを固定したあと、ラックに転倒防止用スタビライザを取り付けてください。

[例：スリムラックの場合]



設置スペース

サーバを設置するときは、以下のスペースを確保してください。
40Uのスリムラックを元に記述しています。その他のラックの設置スペース、および詳細については、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。



設置環境

温度 本サーバは、以下の環境条件を守った上で運用してください。環境条件をはずれた設置環境での運用は、本サーバの故障や寿命を著しく短縮する原因となります。

10℃ 35℃

- 温度(10 ~ 35)
- 湿度(20 ~ 80 %)
- 塵埃(オフィス環境:0.15mg / m³)

3 内蔵オプションを取り付ける チェック欄 ☐

取扱説明書  「第5章 内蔵オプションの取り付け」

カスタムメイドサービスをご利用になって購入された場合は、すでに内蔵オプションの取り付けおよび設定がされています。

準備する

内蔵オプションを取り付ける前に、以下のものを準備してください。

- ・取扱説明書
- ・『PRIMERGY ソフトウェアガイド』
- ・プラスドライバ
- ・マイナスドライバ

重要 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。
また、基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。

内蔵オプションの種類

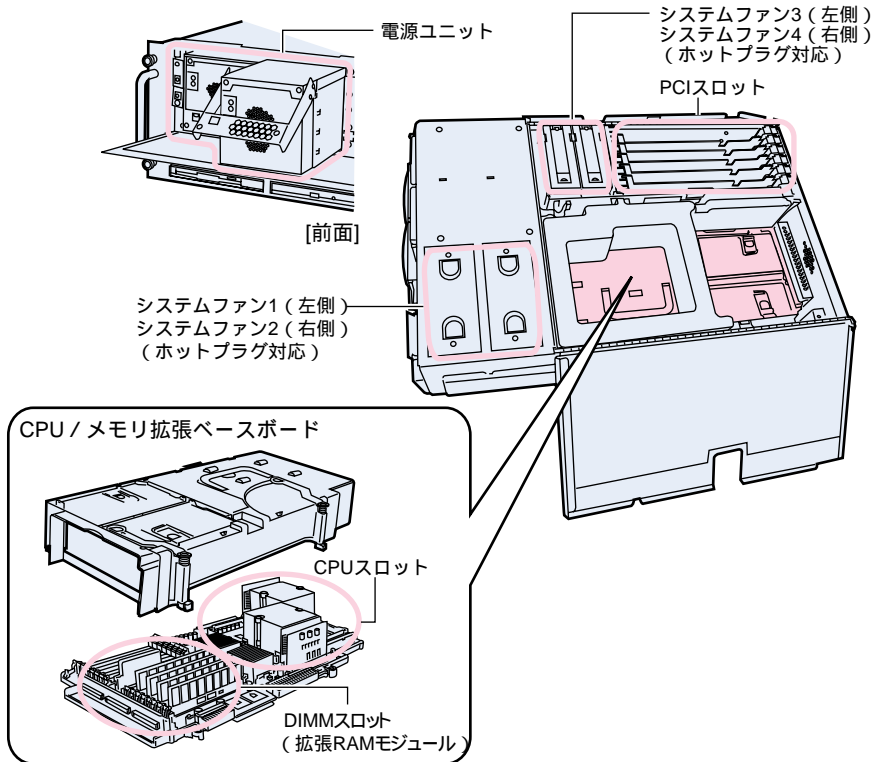
ServerStartを使ってセットアップするときは、基本的な内蔵オプションはServerStartを使う前に取り付けることができます。
ただし、以下の内蔵オプションは、ServerStartを実行したあとで取り付けてください。
・OSをインストールしないハードディスクユニット
・SMP拡張ケーブル(オプションのCPU / メモリ拡張ベースボード添付品、8CPU構成時のみ)

なお、ServerStartを使う前に取り付けることのできない内蔵オプションは、変更され

ServerStart  『PRIMERGY ソフトウェアガイド』の
「第1章 ServerStartの概要」

内蔵オプションを取り付けるときは、取り付ける位置や順序、他のオプションとの同時搭載時の注意があります。参照箇所を熟読の上、以降の手順を実施してください。

取扱説明書  「第5章 内蔵オプションの取り付け」
その他  各オプション装置の取扱説明書




4


周辺装置を取り付ける

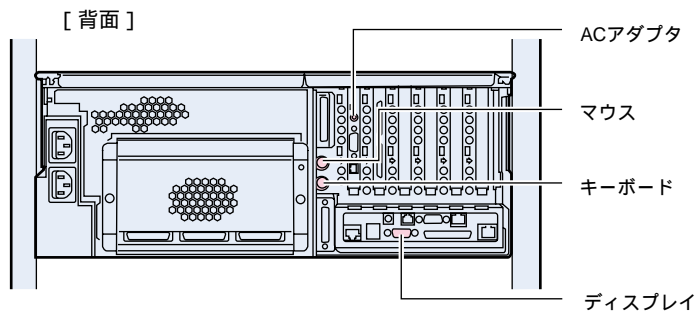
チェック欄 ☐

各周辺装置を取り付けます。

取扱説明書 >>>> 「2.3 接続方法」

**警告**

**感電** 各周辺機器を接続するときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルおよびACアダプタを本サーバから取り外してください。感電の原因となります。



5

電源を入れて、ハードウェアを設定する

チェック欄 ☐

重要 電源を入れた直後、必ずハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズCDをセットしてください。ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクは、ServerStart CDから作成してください。

必要に応じて、取り付けた内蔵オプションの設定 / 確認を、以下のユーティリティで行います。

BIOSセットアップユーティリティ
サーバ本体およびPCIカードの機能を、BIOSセットアップユーティリティで設定 / 確認します。

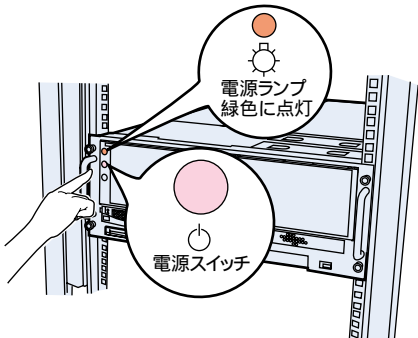
取扱説明書 >>>> 「4.3 BIOSセットアップユーティリティを使う」

SCSI Selectユーティリティ
オンボードSCSIコントローラ(ホストアダプタ)およびそのコントローラに接続されるSCSIデバイスを設定 / 確認します。

取扱説明書 >>>> 「4.4 SCSI Selectユーティリティを使う」

電源を入れる

- ラックドアを開けます。
ラックキーを左側に回し、ラックハンドルの下部を押します。
ラックハンドルが前に上がります。
ラックハンドルを右側に回して、手前に引きます。
 - ディスプレイなどの周辺装置の電源スイッチを押します。
 - サーバ本体前面の電源スイッチを押します。
サーバ本体の電源ランプが点灯します。
- この後すぐに、各ユーティリティを起動します。



BIOSセットアップユーティリティを起動する

BIOS セットアップユーティリティは、以下の場合に行います。

- パスワードの設定をする場合

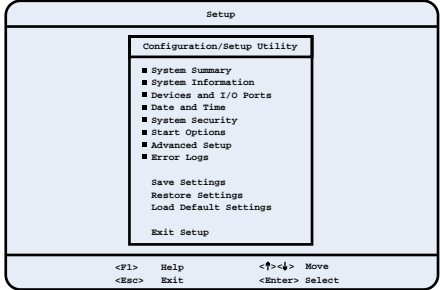
取扱説明書 >>>> 「4.3.10 System Securityメニュー」

- 本サーバを起動するドライブを変更する場合

取扱説明書 >>>> 「4.3.11 Start Optionsメニュー」の「Startup Sequence Options」

起動方法

POSTのメモリカウント終了後、画面左下に「Press F1 for Configuration / Setup」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、[F1]キーを押します。
メインメニュー画面が表示されます。
目的の項目を選択し、[Enter]キーを押します。



Configuration/Setup Utility

- System Summary
- System Information
- Devices and I/O Ports
- Date and Time
- System Security
- Start Options
- Advanced Setup
- Error Logs

Save Settings
Restore Settings
Load Default Settings
Exit Setup

<F1> Help <F10> Move
<Esc> Exit <Enter> Select

SCSI Selectユーティリティを起動する

SCSI Selectユーティリティは、以下を行う場合に使用します。

- ホストアダプタやSCSIオプションの設定の変更や確認を行う場合
- SCSIオプションの物理フォーマット、または媒体検査を行う場合

取扱説明書 >>>> 「4.4 SCSI Selectユーティリティを使う」

その他 >>>> 各カードの取扱説明書

6

サーバの管理機能を設定する

チェック欄 ☐

システムの動作を常に監視できるように、サーバ管理機能をセットアップします。
セットアップには、本サーバに添付の以下のフロッピーディスクが必要です。

- ・ Remote Supervisor Utility
- ・ ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
- ・ Server Management Tools

重要 OSやServerViewをインストールする前に、必ずこのセットアップを行ってください。
セットアップは、サーバにLANケーブルを接続せずに行ってください。
ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクは、ServerStart CDから作成してください。

取扱説明書 >>>> 「4.6 サーバ管理機能のセットアップ」

- 設定方法**
- 本サーバに添付のRemote Supervisor Utilityディスクをセットし、電源を入れます。
Remote Supervisor Utilityの初期メニューが表示されます。
 - 初期メニューの各項目について設定を行い、設定を保存してから終了します。

- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクに入れ替えてサーバを再起動します。
- Server Management Toolsを起動し、Server Management Toolsディスクに入れ替えて設定を行います。

7 OSと必須ソフトウェアをインストールする

チェック欄 ☐

インストールするOSによって、手順が異なります。

重要 OSをインストールする前に、メンテナンス区画を作成してください。

Windows 2000 Serverの場合

ServerStartを実行します。ServerStartを実行すると、OSおよびシステムに必須のソフトウェア(RAS支援サービスなど)がインストールされます。

取扱説明書 >>>> 「6.5 RAS支援サービスについて」
「6.6 ServerViewについて」

ServerStart >>>> 『PRIMERGY ソフトウェアガイド』

起動方法

- 1 電源を入れ、ServerStart CDをセットします。
ServerStartの画面が表示されます。
- 2 ServerStartに添付の「ServerStartフロッピーディスク」を本体にセットして、[OK]をクリックします。
ServerStartの画面が表示されます。画面に従って、OSの設定/インストールを行います。

Windows 2000 Datacenter Serverの場合

本サーバには、OSインストールを支援する以下のCD-ROMを添付しています。

- ・ドライバーズCD
- ・リカバリCD
- ・ServerView CD

上記のCD-ROMを使用して、以下の作業を行ってください。

1 メンテナンス区画の作成

ドライバーズCD >>>> 『PRIMERGYソフトウェアガイド(Windows 2000 Datacenter Server)』

2 OSのインストール

取扱説明書 >>>> 「第6章 ソフトウェアのインストール」

ドライバーズCD >>>> 『PRIMERGYソフトウェアガイド(Windows 2000 Datacenter Server)』
『PRIMERGY T850ドライバーズCD-ROM取扱説明書』

3 RAS支援サービスおよびServerViewのインストール

取扱説明書 >>>> 「6.5 RAS支援サービスについて」
「6.6 ServerViewについて」

その他 >>>> 『ServerViewのオンラインマニュアル』

8 電源を切る / 残ったオプションを取り付ける

チェック欄 ☐

OSや必須ソフトウェアのインストールが終了したら、「3 内蔵オプションを取り付ける」で取り付けられなかったオプションを取り付けます。

内蔵オプションの取り付け終了後、必要であれば再度、ハードウェアの設定を行ってください。

すべての内蔵オプションが接続されている場合は、手順9へ進んでください。

重要 以下の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。

電源切断方法

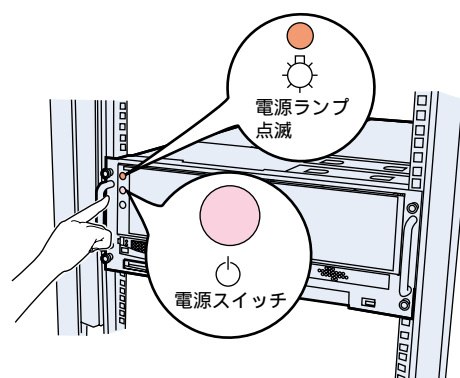
- 1 フロッピーディスクドライブおよびDVD-ROMドライブなどに媒体が挿入されていないことを確認します。
- 2 OSを終了します。
以下の場合、OS終了後サーバ本体の電源が切れます(手順3の操作は必要ありません)。
 - OSがWindows 2000 Serverの場合
 - ServerViewがインストールされている場合
- 3 ハードディスクおよびフロッピーディスクのアクセスランプが消灯していることを確認し、サーバ本体前面の電源スイッチを押します。
サーバ本体の電源ランプが点滅します。
- 4 ディスプレイなどの周辺装置の電源スイッチを押し、電源を切ります。
- 5 その後、その他の内蔵オプションの取り付けやその他の作業を行います。



警告



内蔵オプションを取り付けるときは、サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルおよびACアダプタをコンセントから取り外してください。感電の原因となります。
発煙、発火などの異常が発生した場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となります。



9 システム設定情報を退避する

チェック欄 ☐

「BIOS Environment Support Tools」を用いて、システムの設定情報を退避するとともに、コンフィグレーションシートに装置の運用状態を記入するようにしてください。記入したコンフィグレーションシートは、紛失しないように大切に保管してください。システムに異常が発生したときやオプションの増設時に参考になります。

取扱説明書 >>>> 「4.5 BIOS設定情報の退避 / 復元」
「付録B.1 コンフィグレーション・シート」

重要 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクは、ServerStart CDから作成してください。

取扱説明書 >>>> 「A.4.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の作成方法

起動方法

- 1 電源を入れ、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズCDをセットします。
- 2 メニューから「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、[Enter]キーを押します。
- 3 「BIOS Environment Support Tools」ディスクをセットします。
次のコマンドを入力し、システム設定情報を退避します。

A:\>cmosutil /s 任意の退避ファイル名

10 運用開始

チェック欄 ☐

これでセットアップが終了しました。